



BELOW WATER

OLIVER LUCANUS — Photo & Text
オリバー・ルカヌスが贈る水中世界 Vol.11



誰も育てられない川苔草

シンガー川とイリリ川を形成する急流は澄みきった水を北へ運ぶ。巨大な滝の上流クシア川には、大きな丸石によって形成された浅い岩のプールがいくつもある。川苔草（カワゴケソウ科）は岩の上部に生息し、水面下で複雑で面白い植物を育てる。その明るい色の花は水面上に咲き、ミツバチを引き寄せる。乾季には、植物の乾燥した塊だけが岩に残り、再び水没すると生長を始める。今日まで、この見事な植物の育成を水槽で成功させた者はいない。

【撮影地】
ブラジル クシア川
【生物】
Podostomaceae

OLIVER LUCANUS オリバー・ルカヌス (54)

ドイツ、バイエルン州生まれ。30年以上に渡り、世界中で魚の棲息環境を撮影し続けている。[Xingu Below Water] など写真集を発刊。カナダ、モントリオール在住。IEPA会員。



CREATOR WORKS

Naru Uchida

NATURE AQUARIUM W1,200 x D500 x H500 (mm)



©AQUA DESIGN AMANO

【水底のあかり】背景に佗び草を使った作例として制作したレイアウト。つくり込んだ中景との対比により、佗び草から伸びた各種有茎草が水景にほんのりとした明るさと柔らかな印象を与える。長期維持を前提とした水景では、安定した構図を形成する中景の構成が特に重要となる。



CREATOR WORKS

Naru Uchida
NATURE AQUARIUM W1,200 x D500 x H500 (mm)

植栽



2023年8月3日撮影

完成



2024年11月7日撮影

TITLE 水底の灯り (あかり)

D A T A

制作日 2023年8月3日
撮影日 2024年11月7日
制作 内田 成 (ADA SUIKEI CREATOR)
水槽 キューブガーデン W1,200×D500×H500(mm)
照明 ソーラーRGBⅡ ×2(1日8時間30分点灯)
ろ過 スーパージェットフィルター ES-1200(バイオリオG)
素材 雲山石、ホーンウッド、ブランチウッド、ルートブランチ
底床 トロピカルリバーサンド、アクアソイル・アマゾン Ver.2、パワーサンド・アドバンスM、バクスター100、クリアスーパードルマリンBC

C O 2 バレングラス・ビートル 400、CO₂ツイストカウンターで1秒に5滴(タワー使用)
A I R リリイパイプP-6によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分
添加剤 ブライティK、グリーンブライティ・ミネラル、グリーンブライティ・アイアン、グリーンブライティ・ニトロ
換水 1週間に1度 1/3
水質 水温25℃ pH:6.4 TH:50mg/L

水草 ■ アヌビアス・ナナ・プチ(BIO) ※
■ プセファランドラ・シンタン(BIO) ※
■ ハイグロフィラ・ピンナティフィダ(BIO) ※
■ ミクロソラム・プチロプス
■ 佗比草あかり
■ 佗比草みどり
■ 佗比草オーストラリアン・ヒドロコティレ
■ オレンジミリオフィラム
■ ハイグロフィラ・ポリスヘルマ
■ ルドウィジア・グランデュローサ
■ ウィローモス(モスバッグ) ※

Anubias barteri var. nana 'Petite'
Bucephalandra sp. 'Sintang'
Hygrophila pinnatifida
Leptochilus pteropus
WABIKUSA AKARI
WABIKUSA MIDORI
Hydrocotyle tripartita
Myriophyllum sp.
Hygrophila polysperma
Ludwigia glandulosa
Taxiphyllum barbieri

魚種 ベレズテトラ
グローライトテトラ
エンペラーテトラ
ミクロラスボラブルーネオン
サイヤミーズフライングフォックス
オトシンクルス
ヤマトヌメビ

Hyphessobrycon erythrostigma
Hemigrammus erythrozonus
Nematobrycon palmeri
Microdevario kubotai
Crossocheilus oblongus
Otocinclus sp.
Caridina multidentata

©AQUA DESIGN AMANO
※はADA生体製品ラインナップです。
「佗比草あかり」「佗比草みどり」は販売終了しています。

SUIKEI CREATOR INTERVIEW

内田 成 Naru Uchida

表現と維持のバランス感覚

—— まずは「水底のあかり」というタイトルに込められた意味を聞かせてください。

「水底のあかり」というタイトルは、実は以前販売していた「佗び草 あかり」という生体製品からインスピレーションを得たものです。そこにはあかりが灯るようなやさしくて温かな雰囲気表現したいという意図がありました。また、ユーザーの方に作例として参考にしやすいレイアウトを目指したので、このタイトルには親しみやすさも込められています。もともとは、当時の新製品であった「佗び草 あかり」と「佗び草みどり」を用いた作例として制作したものでした。ただ、現在は残念ながら「佗び草 あかり」と「佗び草みどり」自体は生産されていませんが、佗び草を使ったレイアウトの参考になると思います。このレイアウトの背景は、佗び草が配置できるように雲山石で区分けしてしっかりとそのスペースを確保しています。背景の有茎草が柔らかく明るい印象を与えていると思うのですが、それが水底のあかりのようにも感じられ「水底のあかり」というタイトルがピッタリかなと思いました。

—— なるほど。それは中景との対比効果とも言えますね。その中景にミクロソラム、アヌビアス、プセファランドラ、Hyg.、ピンナティフィダなどを使って作り込んでいるのは、長期維持の観点からでしょうか。

そうですね。ユーザーの方に提案する作例としてのレイアウトでは、長期維持のしやすさが重要なポイントになります。ネイチャー

アクアリウムとしても、基本的には長期維持が重要であり、今回は長期にわたって無理なく維持できるようにレイアウトを構成しています。特に、経験が浅いユーザーの方でも参考にしやすいレイアウト構成を心がけました。雲山石は、水草が少ないと圧迫感を与えやすいんですね。雲山石自体は黒っぽくゴツゴツした質感が特徴ですが、これが水草とあまりなじまないと思っていました。実際、これまでも雲山石を使った水景を管理しているときにそう感じたことがありました。水草の量が少ないと、どうしても石の線が強調されてしまって硬い印象になりがちなんです。そこで、今回はミクロソラムやアヌビアスをはじめとした活着性水草を使い、雲山石のポケットのようなくぼみにそれらの水草を配置しリズム感を持たせつつ、水草の印象による柔らかさを加えました。これにより雲山石の存在感を少し抑えて、水景全体がやさしく、自然に見えるようにしています。また、こうした中景の作り込んだ構成が、背景にある有茎草の下茎部を隠す役割も果た

し、長期間にわたって水景を美しく維持しやすくしているのです。

—— メンテナンスのしやすさについては具体的にどのような工夫をしましたか。

メンテナンスのしやすさはかなり配慮しました。まず素材選びですが、あえて大きな雲山石を選びました。雲山石を3つ配置し、前後で底床を分けているのですが、これは長期的に見てとても重要なポイントです。底床を敷き分ける際に、境界にどのような大きさの石を使うかでメンテナンスのしやすさに大きな差が出てくるからです。小さな石を使うと、安定感がないので長期的に管理が難しくなることがあります。特に石垣のように組んだレイアウトではソイルが隙間から漏れてきたり、植え替え時に崩れやすくなるんです。その点、今回の雲山石のように大きな石を使うと、そうしたトラブルが起きにくく、安定感を持たせることができるんです。敷き分けた部分も広めにしっかりと分けているので、ズ

レが起きにくく、全体のバランスを保つことができました。また、化粧砂を使う際にもトロピカルリバーサンドのような粒度の大きな素材を使うことで、洗浄や砂の入れ替え作業などもよりやりやすくなります。長期維持を視野に入れるとこうした作業性も考慮しておくいいと思います。

—— 水草の配置にも工夫があったとのことですが、具体的にどのような点に気を使いましたか。

特に中景で使った活着性水草が大きくなったときに影ができることに注意を払いながら配置しました。影ができると他の水草が育ちにくくなることもあるからです。中景の水草が育ったときにできる影の影響をできるだけ抑えるように全体の配植を考えました。これにより植物同士が自然に調和し、育成がスムーズに進むような構成になっています。

—— なるほど。流木の使い方にも特徴があるように思ったのですがいかがでしょうか。

そうですね。流木の配置にもこだわりがあり、これまであまり見られなかったようなシルエットやラインが浮かび上がるような新鮮さを出すことを目指しました。シンプルな構成の中に、流木の線がぼんやりと浮き上がる感じが面白いと思っています。この作品は、前回のレイアウト（「ウッドストーリー」AJ vol.350掲載）の応用でもあります。使っている流木の種類や配置場所を変えることで、少し違った表

CREATOR WORKS

Naru Uchida
NATURE AQUARIUM W1,200 x D500 x H500 (mm)



長期維持に向け、大きな雲山石を選んだ。石の線が強くなるので雲山石のポケットのようなくぼみに水草を配置し、水草の印象による柔らかさを加えた。

現を目指しました。流れ着いた流木がそのまま引かったようなイメージで、今回は3種類の流木を使っています。それぞれ種類が異なる流木をあえて組み合わせましたが、質感が似ているものを選んでるので、意外と違和感なくなじんでいると思います。太いホンウッド、中ぐらいのブランチウッド、そして細いルートブランチと、流木の太さを変えることで、より立体感を持たせ、全体の一体感を出したつもりです。

—— 今回の水景の制作を通じて何か気づきや学びはありましたか。

レイアウト表現と長期維持の可能性のバランスを取る重要性ですね。これはコンテスト作品ではないので、やはり水景として長期維持が実行可能なレイアウトでなければなりません。制作時にいくら細かな表現を施しても、それが維持できなければ、水景として

十分に楽しめません。この作品は、ご家庭でネイチャーアクアリウムを日常的に楽しむことを想定して制作しており、レイアウト表現とメンテナンスにかかる手間のバランスを重視しています。また、今回は背景に佗び草を使用したのですが、佗び草のランダムに種類の異なった有茎草が生えてくる意外性が面白く、その変化や生長の過程はまるで宝箱を開けるようなワクワク感がありました。佗び草ならではの予測できない変化に改めて魅力を感じたので、これからも佗び草を使って新しい表現を追求していきたいですね。この水景は1,200mm水槽なのですが、レイアウト表現のスケール感も考慮してベレズテトラを泳がせました。中央の流木の枝が絡まる空間で舞い泳いでくれて、とてもいい雰囲気や気に入っています。このサイズの魚は水景によく映えますし、これこそネイチャーアクアリウムの楽しみ方なのではないかと思っています。



水景に明るさを与えることと管理のしやすさも考慮して前景は化粧砂とした。雲山石と活着性水草で中景を構成し、背景は佗び草が配置できる十分なスペースを確保している。

構図



2023年8月3日撮影

MINI NA #11

Mini NATURE AQUARIUM
MAINTENANCE GUIDE

DATA

撮影日 2024年5月10日
水槽 キューブガーデン W150×D150×H220 (mm)
照明 マグネットライト G スリム (1日8時間30分点灯)
ろ過 ストリームポンプ・ミニ
素材 プランチウッド
底床 アクアソイル・アマゾン Ver.2、バクター R
CO₂ CO₂システム74-DA、ベルグラス・ミニで3秒に1滴
添加剤 ミニNAリキッド
換水 1週間に1度 1/2
水質 水温25℃ pH:6.2 TH:50mg/L
その他 メタルカパー・ミニ、メタルベース・ミニ

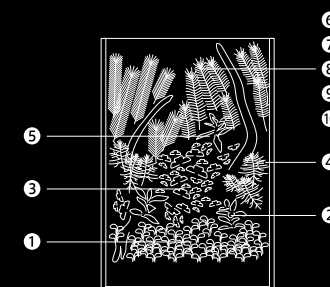
金魚鉢から学ぶ ミニ水槽での心得

ヨーロッパでは金魚鉢で金魚を飼うことは敬遠されるという。その理由としては、湾曲したガラスとフィルターもない少ない水量という環境が金魚の飼育にとって好ましいとは言えないからである。この問題については、ガラスこそ湾曲してはいないものの、水量が少ないミニNAを楽しむ上でも心得ておかねばならないだろう。この点を考慮して、ミニNAでは小型のエビを水景の主役として迎え入れている。これらのエビはカラーバリエーションが豊富で、水景に彩りを与える役割も果たしてくれる。また、水槽内でよく殖えてくれるのもうれしい。水槽内の藻類やアマゾン Ver.2をついばむので、少ない匹数で



水量が少ないので小型のエビなら飼育できる。

あれば必ずしも給餌を必要としないことも、水景を維持管理する上でのメリットとなる。他の大きな水槽サイズでは脇役的な存在のエビの仲間であるが、ミニNAでは主役としてその魅力を十分に楽しめる。そんな彼らの魅力をより引き立てるためには、細かな葉の水草を密生させるとよい。魚を横から観賞する視点を与えた金魚鉢は水槽の原点とも言え、江戸時代、飼育器具がない当時において人々が金魚鉢で一時的に金魚を愛でたというのは日本的風情として理解できる。しかし、現代において変形水槽におびた数匹の金魚を泳がせる展示が巷を賑わせていることには、閉口してしまうばかりである。



植物 ①グロッソスティグマ ※ ②スタウロギネ・レベンス ※
③ヒドロコティレ・ミニ ※ ④ミリオフィラム sp. ガイ
アナドワーフ ※ ⑤ルドウィジア・レベンス・スーパー
レッド ※ ⑥グリーンロタラ ※ ⑦ニードルリーフル
ドウィジア ※ ⑧ロタラ・ナンセアン ※ ⑨ロタラ・
Hra ※ ⑩パールグラス ※
生体 レッドビーシュリンプ

※はBIO みずくさの森のラインナップです。

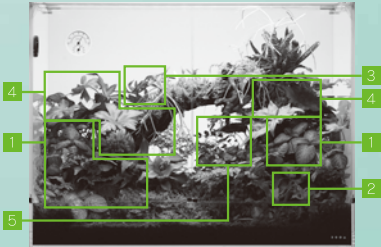
CREATOR WORKS

Kota Iwahori
PALUDARIUM W600 x D300 x H450 (mm)



「Ever Green Fern」
シダ植物をメインにしたこのレイアウトでは、シダの葉姿や清涼感を引き立てるために派手な色味は控え、同系色やブラウン(褐色)の植物でまとめている。一口にシダ植物といってもそれぞれ好みの環境があり、ベストな姿を見なければW600mmサイズのケース内ですら植栽位置はしっかり見定めたい。掌のような葉を展開させるドリオプテリス・ベダタは比較的明るい環境や通気性を好むためやや開けた場所に植栽。ボタンファーンとも呼ばれるヘミオニティス・ロトゥンディフォリアは、乾燥や葉焼けで葉を落としやすいため流木下のウェットシェードへ植栽した。また、サーキュレーションファン40を使用し、保温、保湿をコントロールすることによって個性的でみずみずしいシダの姿を楽しむことができた。

D A T A	
撮影日	2024年11月13日
制作	岩堀 康太 (ADA SUIKEI CREATOR)
水槽	ネオグラスパルダ 600
照明	パルダライト 600 (1日8時間点灯)
底床	ジャングルソイル、ジャングルベース
給水	毎日朝夕の霧吹き(コケが乾燥気味なら多めに)、週2回の「花び草ミスト」
排水	底床の半分を超えたら排水パーツから排水
湿度管理	ハントスプレーで55%～65%に調整
時間管理	パワーコード S-70



- MAIN PLANTS
- 1 エビスシア・クブレアータ
 - 2 クリプタンサス・アカウリス ジェイド
 - 3 ディネマ・ポリプルボン
 - 4 ドリオプテリス・ベダタ
 - 5 ヘミオニティス・ロトゥンディフォリア

New Style Indoor Green

Style
11

DOOAで提案するガラスケースで主に熱帯植物の育成を楽しむスタイルをさまざまな作例とともに紹介。日々の生活の楽しみとして取り入れてみては。



DATA

CASE
CELL EMERALD

PLANT
ベゴニア・
クロロスティクタ

LIGHTING
マグネットライト G スリム 6段階中3〜4
ライトスタンド Z

SUBSTRATE
ジャングルベース、トロピカルリ
ソイル、ブラックラバストーン

毒々しいドット模様が魅力の原種ベゴニアの
人気種。ADAジャングルプランツでもライン
ナップしており、丈夫で育てやすい。調子がい
いと大きな葉を展開するようになるので、葉
姿維持に手を焼く一面も。作例は岩石に堆積
した土壌に根を張る様子をイメージした。



DATA

CASE
CELL EMERALD

PLANT
アロカシア・
フライングスクイッド

LIGHTING
マグネットライト G スリム 6段階中4
ライトスタンド Z

SUBSTRATE
ジャングルベース、トロピカルリ
バーソイル、バフレイヤーストーン

超個性的な葉姿のアロカシアで、高温多湿
な環境を好み若株のうちはCELLでの育成
が可能だが、このイカした葉姿を最大限に
楽しむためには最終的にはトップケースを
外しての育成となる。植物への興味を高め
てくれる異端な存在感だ。



DATA

CASE
CELL CLEAR

PLANT
アマビマス・ヘテロフィラ
スーパーノヴァ

LIGHTING
マグネットライト G スリム 6段階中3〜4
ライトスタンド Z

SUBSTRATE
ジャングルベース、トロピカルリ
バーソイル、ブラックラバストーン

改良品種であっても比較的似たモノ同士
が多いアマビアスの仲間であるが、葉が
丸まり葉縁が波打つ本種は独特なフォル
ムをしている。水草レイアウトではこの個
性を生かすには一考しそうだが、CELLで
の水上栽培には最適種と言えそうだ。

※ライトスタンド Zは今春発売予定

KUMU MAKING GUIDE

#10

「
こだわりのレイアウトを楽しむための化粧素材
「KUMU」。ここでは、それらを用いたレイアウト
のつくり方や実用的なテクニックなどを、順を
追ってわかりやすく解説します。
」

HOW TO MAKE

01



侘び草マット
クリスマスモス

侘び草マット クリスマスモスからモスを慎重に取り外し、
テラベースにクリスマスモスを巻き付けます。

02



KUMU
ホーンウッドピース

テララインを使用し苔類を活着させたホーンウッドピース
を固定します。

03



テララインを使用し、テラベースに着生植物を活着させて
いきます。

04



KUMU
ヤマヤストーン

テラベースをネオガラスエアに入れ、山谷石を傾斜につけ
て積んでいきます。モスを巻いた山谷石を混ぜて使うと
より自然に仕上がります。

05



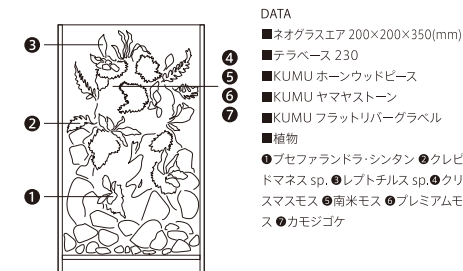
KUMU
フラットリバーグラベル

フラットリバーグラベルを前面に敷いて完成です。

06



テラベースとKUMUを組み合わせると、より立体的で自然
な表現が可能になります。着生ランなど乾く時間も必要
な植物を使用する場合は、ホーンウッドピースなどに活着
させてテラベースから直接染み出す水に触れずに育成す
ることで、より植物に合わせた育成が可能になります。



IAPLC CREATOR'S FILE #21 Bernat Hosta Rovira

世界トップレベルの水草レイアウトコンテストである「IAPLC」。このクリエイターズファイルでは、その上位入賞者にインタビューを行い、上達の秘訣や水草レイアウトに対するこだわりを紹介いたします。

ベルナット・ホスタ・ロヴィラさんのSNSアカウント



水草レイアウトを制作する過程は 創造性と挑戦が融合した唯一のもので 無限の可能性を提供してくれる

Q 出品作品の コンセプトをお聞かせください。

本作品は、遠近法を活用し、レイアウトに奥行きと視覚的な強いインパクトを与えることに焦点を当てています。照明の角度で構図に光と影を出すことで、見る者を引きつけるような景観をつくりたいと考えました。

Q 一番工夫した部分は どの箇所ですか？

没入感のあるレイアウトを目指し、手前に大きな石を配置して奥行きを強調し、強い視覚的インパクトをつくり出すことで、まるでパノラマカメラを通して見ているかのような効果を景観に落とし込みました。

Q 険しい山岳の渓流を感じさせますが 構図を組む際に意識した点はありますか？

穏やかでありながらも、荒々しい山の渓流を思わせることに重点を置き、自然な流れやリズムを表現しました。自然界に見られるような無秩序、かつ調和の取れた石、流木の配置となるよう意識しています。

Q 植栽のポイントを 教えてください。

全体の自然感を強め、水草たちがそれぞれ調和して見えるよう、自然環境に習いながら、特徴や質感、サイズ、色の多様さを意識して選んでいます。また、水草の相互作用や関係性も考慮し、各水草が適切な光と栄養を得て長期間健康に育つよう配慮しています。

Q タイトルに「ヘス川」とありますが 参考にした風景などはありますか？

タイトル「RIU GES」(ヘス川)の由来は、カタルーニャに実在するヘス川からインスパイアを受けて名付けました。静かで美しい絵画のような川です。澄んだ水、豊かな植生、そして川が風景の中を流れる様子は、私のデザインにとって完璧な設計図となりました。その美しさと静けさを水景で表現したいと思いました。さらに、地元のアクアリウムショップ「アクアリウム ヘス」は、作品づくりにおいてサポートしてくださり、タイトルはその店舗に対する敬意も表現しています。

Q IAPLC に初めて参加した きっかけはありますか？

自然の水生環境の美しさと複雑さに常に魅了されており、何年にもわたるアクアスケイピングへの情熱と創造的に自分自身に挑戦したいという思いからIAPLCに参加しました。自分のスキルが国際的なレベルで通用するのかが確かめたかったのです。IAPLCは、世界中のホビイスト、愛好者やプロフェッショナルが集うコンテストで、そのコミュニティの一員になりたいとも思いました。さらに、他の才能あるアクアスケーパーから学び、新しい発見を得て、自分のデザインの限界を押し広げることもできます。名誉あるコンテストからのフィードバックや評価も大きなモチベーションとなりました。



「ヘス川」 Aquarium Size W900×D500×H430(mm)

水草：アマビマス・ナナ ポンサイ/プセファランドラ・ティープーパープル/プセファランドラ・クダカン/プセファランドラ・レッド/クリプトコリネ・バレルバ/クリプトコリネ・ルベラ/クリプトコリネ・ウイリシ/ヤウラセニゴケ/ゴールデンネサエア/クリスマスモス/アマビマス・ナナ ミニ/アマビマス・

ナナ バンゴリーノ/ヘアーグラス/エリオカウロンsp. ドンハ/キューバ/バーブルグラス/オーストラリアンドワーフヒドロコティレ/ハイグロフィラ・ピンナティフィダ/ニューラージパールグラス/ポゴステモン・エレクタス/ロタラ・Hra /南米ウイローモス/ミリオフィラム・マトグロッセンセ グリーン 魚 種：グローライトテトラ/ゴールデンバルブ

Q 以前より上位に入賞されていますが 秘訣などあればお聞かせください。

今年は自己最高の結果であり、非常に興奮しました。本作品は一目で印象的だったことが大きな要因だと考えており、その点が成功につながったのだと思います。特に、アダム・バスチエラ氏とオリバー・メンゲドート氏という二人の審査員から「ベストアクアリウム」をいただき、とても嬉しく思っています。

Q 長く水草レイアウトを継続する上で 原動力になっていることはありますか？

変わらぬ自然への情熱と、アクアスケイピングの芸術的表現は長年私のモチベーションとなっています。水草レイアウトをつくることは、創造性と挑戦が融合した唯一のもので、無限の可能性を提供してくれます。レイアウト

を構想し、計画し、実行する過程は非常に充実感があり、スキル向上のための新たな挑戦を常に与えてくれます。

Q カタルーニャの水草レイアウト事情を お聞かせください。

私が住んでいるカタルーニャでは、水草レイアウトへの関心が顕著に高まっているように思います。アクアリウム愛好者たちは水草レイアウトに注目し、さまざまなコミュニティを専門店が支援し、促進しています。これらの組織や企業は、イベントを開催し、場を提供し、知識を共有し合うことが、この趣味の発展において重要な役割を果たしていると考えています。さらに、私は個人的にもこの趣味の発展に貢献しようと、ワークショップを開催したり、講演を行ったりしています。

Q 最後にあなたにとって IAPLCとは何か教えてください。

IAPLCは水草レイアウトにおいて世界的な基準であり、最も優れたコンテストとして認められています。世界選手権のようなもので、多くの愛好家を引き寄せており、この競技的な側面は、卓越性と革新を促進し、驚くべき作品を生み出します。さらに、世界中のアクアスケーパーが集い、自分の作品を共有し合い、学び合うイベントでもあります。「IAPLC アワードセレモニー」も重要なイベントです。最高の作品を称える瞬間であるだけでなく、参加者同士の友情や共通の情熱を体現した集まりでもあるのです。



構図制作時の様子。渓流を連想するような岩肌と強烈な遠近感が印象的。



イメージの源となった「ヘス川」の風景。

創造の人・天野 尚の軌跡。 文／阿部 正敏

超大判フィルムの世界

第7回 W2,400×D600×H600 mm水槽 (1996年撮影)
フジクローム・ベルビア (RVP) 8×20 in

※このページではカラーリバーサルフィルムの色をできるだけ忠実に再現し、
実物の約70%の大きさに縮小した画像を掲載しています。

天野 尚と愛用の大判カメラ
1 8×20 in 2 8×10 in
3 11×14 in
4 4×5 in 5 5×7 in



「歴史の変わり目」を記録した超大判フィルム

1980年代に天野 尚が確立してから現在まで約40年に及ぶネイチャーアクアリウムの歴史において、いくつかの「歴史の変わり目」があった。それは、水槽のシステム面、レイアウトスタイル、そして水景写真の撮影方法における変わり目である。1995年から翌96年にかけてはこれらの変化が相次いで起きており、ADAの大転換期とも言えるべき時代

であった。水槽のシステム面では、現在のキューブガーデンに相当するフレームレスのガラス水槽や、底床素材の定番となるアクアソイル・シリーズが発売になっている。レイアウトスタイルでは、それまで単植か数種類の下草の植栽にこだわっていた石組レイアウトにおいて、有茎草やロゼット型など多様な水草が用いられるようになったのも

この時期である。今回の作品は1996年後半に撮影されたもので、八海石の本格的な石組にクリプトコリネの仲間をメインに植栽した当時としては斬新なレイアウトになっている。ちなみに、天野が底床に海産砂を使用した水景としては最後期のものであり、同時期に撮影された他の水景ではすでにアクアソイルが使用されている。



超大判フィルムを用いた水景写真の撮影方法

超大判カメラによる水景の撮影では、通常の水槽用照明ではなく特殊な光源が必要となる。この水景のような大型水槽の場合、水槽の上にアルミパイプを組んだ“ヤゲラ”を設置し、その上にしつかりとした金網を敷いて撮影時の光源となるストロボを載せていく。ストロボと言っても重量があるスタジオ用の大型ストロボヘッド (3,200W) を

10灯も載せるため、支えるには相応の強度が必要だった。また、多くの電力が必要となるため、発光直後に電源のブレーカーが落ちることもしばしばだった。そうまでして大光量が必要だった背景には、超大判フィルム特有の理由がある。フィルムサイズが大きくなると対応するレンズの焦点距離が長くなるため、十分な被写界深度を得る

ために絞り値を大きくする (絞り込む) 必要があるのだ。この撮影に使用されたレンズの焦点距離は一般的な35 mmカメラでは超望遠レンズに相当する300 mmで、開放絞りでは被写界深度がかなり浅い。天野の場合、水景の奥行きと状態に合わせて絞り値はF32からF64の間で撮影することが多かった (この写真はF32 1/2で撮影)。

この大型ストロボヘッドには構図決めやピント合わせの際に被写体を照らすモデリングランプとしてハロゲンランプが組み込まれているのだが、これを点灯しているとかかなりの高温になるため、取り扱いには注意が必要だった。この写真は、そのハロゲンランプの光を利用して多重露光を行うことでソフトフォーカスレンズで撮影したような効果を狙った一枚。幻想的な雰囲気が演出されている。
フジクローム・ベルビア (RVP) 8×10 in (約30%に縮小)



水草道!

ミクロな安心感



Illustration / Hayase Kato

STAFF CREDIT

Publisher
天野 しのぶ

Art Direction
丸山 悟司

Design
市川 亮 / 高遠 将史
板橋 広夢

Editor
岩堀 康太 / 松本 隆介

Supervisor
大岩 剛

Photo Supervisor
阿部 正敏

Published by
株式会社 アクアデザインアmano
<https://www.adana.co.jp>

Printed by
株式会社山田写真製版所



NEXT AQUA JOURNAL

APR. 2025 vol.354
2025年3月10日(月) 発売予定



アクアジャーナルの情報は一部、
ADAホームページで公開しています。
AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD.
©2025 Printed in JAPAN

PLANTS PORTRAIT

Photo & Text / Rynsuke Matsumoto



Restrepia cymbula

花色や模様、形状が多様なレストレピア属の中でも、レストレピア・シンブラは特に目を引く。立体的な唇弁と前衛的で独特の模様が個人的に気に入っている。花はおおよそ2週間で散るものの、すぐに葉裏から新たなつぼみが上がり、咲き続けるため常に華やかだ。自然の恵みという表現は、主に食物などに使われるが、こうした原種の花々もまた、確かな自然の恵みである。この美しさを享受できるような感性を磨き続けたいと思うしだいである。

日々植物の育成に勤しむ松本 隆介の視点で、毎月ひとつ植物を紹介します。



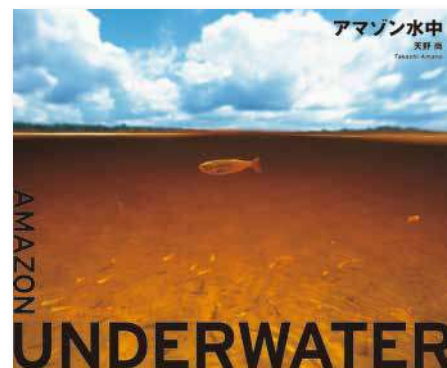
レイメイド品をお客様に購入いただいた際、スタッフとして嬉しい反面、少し寂しい気持ちもあります。スタッフは丁寧に時間を掛けて一つの作品をつくっています。お客様の購入後の管理のしやすさ、植物の選定、スタッフなりの自然美のエッセンスなど、さまざまな意図が込められているのです。レイアウトが良いこともさることながら思いが込められた物というのはそれだけで魅力的に映るものです。ぜひ、ADA LABに訪れた際はレイメイド品の「こころ」の部分にも注目してみてください。



REPORT

Photo & Text / Hayase Kato

INFORMATION



アクアリストのための水中の記録
1995年-2003年にわたるアマゾン水中撮影の集大成

天野 尚が精力的に写真に収めたアマゾンの水中写真は、これまで月刊『アクア・ジャーナル』や写真集『ラストアマゾン』などで発表されてきました。『アマゾン水中』は、それらの作品を天野 尚没後10年に際し、厳選してまとめた写真集になっています。アクアリストにとって、ネイチャーアクアリウム制作のヒントとなり、アマゾンに棲息する熱帯魚や自生する水草のありのままの姿が記録された、貴重な情報が詰まった一冊です。

天野 尚 写真集『アマゾン水中』 サイズ: 縦180×横220 (mm)
価格: 3,850円 (税込) ページ: 120ページ+表紙カバー

※全国のADA販売特約店で求めください。



ADA NATURE AQUARIUM
NEW LIGHTING SYSTEM

SOLAR RGB II

次世代型水草育成用高色彩LED照明システム



2つの新機能が加わって新登場。

ADAの次世代型ライティングシステム「ソーラー RGB II」は、前モデルをさらに進化させ、専用アプリ「ADA CONTROLLER」で多彩なコントロール機能を搭載。アクアリウムやバルグアリウム育成に最適な光を簡単に調整でき、ネイチャーアクアリウム、バルグアリウム、サンライト、ムーンライト（イメージ）など、環境に合わせた光を選択可能です。光色や光量はカラーピッカーやスライダーで直感的に調整でき、好みに合った設定を保存して繰り返し使用できます。さらに複数台のソーラー RGB IIを一括でコントロールできる「グループ化」とタイマー管理時に時間帯によって光量を変更できる「アドバンスドモード」の2つの新機能が追加されました。

価格: 102,300円 (税込)

※タイマー機能を含む各種コントロール機能を利用するためには、
「ADA CONTROLLER」アプリを対応するデバイスなどにインストールする必要があります。
※「ADA CONTROLLER」アプリは、日本国内開発です。



「ADA CONTROLLER」



IAPLC 2025

Application period

2025.4.1 TUE — 5.31 SAT

GRAND PRIZE JP ¥1,000,000- Free application fee

世界水草レイアウトコンテスト 2025

応募期間 2025年4月1日(火)~5月31日(土) グランプリ賞金 100万円 出品料無料

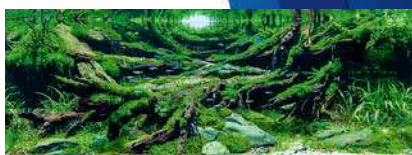
Cosponsored AQUA JOURNAL (Japan) / AQUA LIFE (Japan) / aquristik (Germany) / Practical Fishkeeping (Great Britain) /
外資専門誌 The Aquatic Gardener (U.S.A.) / TROPICAL FISH HOBBYIST (U.S.A.)

IAPLC AUTHORIZED CONTESTS       

www.iaplc.com



IAPLC2024 World Ranking 1 Luis Carlos Galarraga / Brazil



IAPLC2024 World Ranking 3 Qi Lin / People's Republic of China



IAPLC2024 World Ranking 2 Kam Pui Kwong / Hong Kong, China



IAPLC2024 World Ranking 4 Bernat Hosta Rovira / Andorra



IAPLC2024 World Ranking 5 Chuangwei Yu / People's Republic of China



IAPLC2024 World Ranking 7 Katsuki Tanaka / Japan



IAPLC2024 World Ranking 6 Takashi Hosoda / Japan

From Creation to Legacy

その創造が歴史をつくる